

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

▼ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		スタッフ全員で理念を理解・共有し実践に生かして行く。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		入居者様の生活歴・経験・特徴を知り、それを生かした事業所の理念を試みる。 理念に基づいた「声掛け・態度・記録」に取り組んでいきたい。管理者・職員・運営者の話し合いの場をもっと作って行きたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		あせらず徐々に地域と連携を持ち、利用者様やご家族様が暮らしやすい環境にして行きたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		付き合いに努めていても、気軽に入れる環境は出来ていない。まだこれから。引き続き、近隣の人たちへの挨拶をしていくよう心掛ける。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		小・中学生の福祉体験学習を積極的に受け入れている。又、地域のボランティア希望者も積極的に受け入れている。自治会の集まり、定例活動に参加している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の貢献として実習生の受け入れを積極的に行っている。研修に参加し認知症ケアの啓発に努めている。		スタッフの技術、意識、知識向上に力を入れて行きたい。地域の高齢者介護に悩みをお持ちの方々に、よき相談者となって行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	客観的に事業所を把握し見直しすることで、不十分な点の改善に努めている。サービス評価の必要性を職員へ伝え、全員で自己評価に取り組んだが理解して協力を得るのに難しい部分があった。		パート・社員・運営者という壁をなくし、ホームで働く仲間として、外部評価の意味を理解し合い実践して行きたい。自己評価に対して日々から共通理念を図って行きたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な立場の人に参加してもらい、現在取り組んでいることを報告し意見をもらっている。又、課題や反省点についても改善に努めている。		定期的に運営推進会議を実施し、様々な視点からサービス向上につながる意見・提案を受けられるようにしたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議・グループホーム部会以外でも市役所職員、社協職員との関わりを持つようにしている。会議・部会の時以外にも関係機関に伺い、質問したり現在の報告を行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースは、事務・管理者(不在時は社員)が対応している為、非常勤職員は理解は出来ていない。		「成年後見制度」「地域福祉権利擁護事業」についてご家族・職員へ説明の場を設けて行きたい。わかりやすくまとめた文章を職員・家族へ配り、学ぶ機会を作って行きたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為を発見した場合の対応方法について事業所で周知徹底されていない。 毎月会議を行い、自分達のケア方法を見直し改善に努めている。		虐待防止関連法について職員全員で学ぶ機会を作り理解に努めて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>一方的な説明にならないようゆっくりと相手に合わせた説明を心掛けている。利用料金・重度化・身取り・医療確認書(希望病院/延命治療)についての対応や医療連携体制の説明し同意を得ている。</p>	<p>利用者又は、そのご家族にあらかじめ契約内容を読んで頂き、後日リラックスした雰囲気のもとで十分な説明と質問を受け、理解納得に努めていきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の中で出来るだけ意見を聞き入れるよう努めている。その情報は他職員と共有し改善に向けて話し合っている。意思表示が難しい利用者様に対しても表情や態度からその想いを察する努力をし、利用者本位の介護を目指している。</p>	<p>利用者様同士で話し合う機会が作り、出来る限り気持ちを引き出していきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月ご家族様へ近況報告という形で利用者様の状態・状況を報告している。又、面会に来られた時は、直接報告するよう努めている。</p>	<p>報告するだけでなく、ご家族様の想いや意見を踏まえてケアに生かしていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時は個別に話し合い、意見を引き出すよう努めている。苦情BOXを配置しているが、利用されたことはない。今年からご家族交流の機会を作っている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月全体会議を実施、連絡意見箱の設置により職員の意見や要望を聴くよう努めている。又、日頃から管理者等に気軽に意見や提案が出来る、良好な人間関係構築に努めている。</p>	<p>会議の出席人数が少な為、まず会議の必要性を呼びかける。職員が率直な意見・提案が出せる様、毎月運営に関する考え方、行動方針、問題点を全職員に文章で回覧していく。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員が急に休んでしまった時に補充できる職員・応援してくれる職員の確保に努めている。</p>	<p>勤務日の職員間入れ替え、非常勤勤務、残業、分担変更など気持ちよく支えあえる職員関係を築いていく。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職は多い。そのままにせず、その問題点について話し合っている。新しい職員へはきちんと利用者様へ紹介し既職員と一緒に行動してもらい馴染んでもらえるようにしている。又、各利用者様への対応責任者を定めている。</p>	<p>職員が変わっても統一した支援が提供できるようにしていく為、職員間で助け合いの出来る職場環境を作る。そして、ユニット毎に職員を固定しない。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内に各勉強会などの案内が来た時は、職員に連絡し参加を呼びかけている。		事業所内でも勉強会を定期的実施していく。 必要な研修、講習に関しては公費で参加できるようにする。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に市内の事業所が集まり、情報の交換を行うことでサービスの質の向上に努めている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	介護ストレス解消の為、リフレッシュ有給休暇を有効に活用。休憩質を確保し仕事から離れ、気分転換できる環境を作っている。		定期的に個別面談を行い職員の悩みやストレスを把握し改善できる環境にしていきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ストレスの軽減、労働条件の柔軟性、労働内容の明確化を図っている。		気軽に意見交換や提案の出来る職場環境を整える。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にできるだけ状況を把握し本人や家族の不安を取り除くよう努力している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にできるだけ状況を把握し本人や家族の不安を取り除くよう努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り、本人・ご家族の希望に近づけるよう努力している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	無理に入居すると本人が不安を抱いてしまうことを家族に説明し、納得した上で入居してもらうようにしている。 入居した時からいつもスタッフが見守れるよう気を付けて、必要な場合はすぐに介助へ入る。環境や他入居者様と早く馴染めるように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として敬意をもって学ぶ姿勢を忘れずに接している。		人間同士、感情的になってしまう事があるので冷静に対応していきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と接する機会を出来る限り作り、共に利用者様を支えていけるような関係を目指している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係も様々なのでその点を配慮しながら支援に努める。 外出や外泊でご家族様と利用者様が一緒に過ごすことを進めている。行事にご家族様へ参加を呼びかけている。本人の日頃の様子を報告・相談することで家族との関係が途切れないよう努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係を切ってしまうことはせず、いつまでも長く続くよう努めている。		生活歴やご家族様からの話から馴染みの把握に努める。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	スタッフが間に入り利用者様の関係を築くよう努めている。トラブル発生時には、スタッフは仲介に入るよう徹底している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	お便りを頂いたりしている。機会があれば会ってお話する機会やホームへいつでも来れる関係を心掛けている。		お互いが負担に感じないよう取り組んでいきたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り本人の意向に沿う生活に努めている。本人の希望を尊重しスタッフの考えを押し付けないようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に可能な限り生活歴等聴き、過ごしやすい環境を提供している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人のリズムや状態を把握するよう、申し送りや記録にて努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース会議にて意見を出し合っている。必要に応じて関係者と相談している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に二度、ユニット毎の介護方針を見直し、職員一同に結果を文書にて回覧し周知を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録に残し、情報の共有に努めている。 個別のファイルで身体的状況や日々の暮らしなど記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活継続、重度化した場合や終末期の入院回避。(事前にご家族へ文章にて確認している)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域と様々な接点を見直し、周辺施設への働きかけやボランティアを呼びかけているが、現実難しい。		利用者様が安心して地域で暮らせるよう警察や民生委員と意見交換していく。引き続きボランティアの協力を呼びかけていく。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	市内の老人福祉施設や訪問美容を利用。 希望により訪問入浴サービス、訪問リハビリサービスを手配し支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月1回は運営推進会議にて関係を持っている。		地域包括支援センターの役割を理解し、意見交換等行って行きたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ往診により日常的な面を支援していただいている。必要がある場合は、眼科・皮膚科・整形外科・歯科など専門科への紹介をしてもらい通院介助に努めている。		受診、薬の処方については利用者様・ご家族様の意向を日頃から十分話し合っていく。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>かかりつけ医に診て頂いていることが多い。状態悪化が見られた時は、紹介のもと通院援助している。</p>		<p>認知症専門医の話しも機会があれば聞いてみたい。専門医と連携し利用者様へよりよいケアを提供して行きたい。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>必要に応じてかかりつけ医の看護師がホームに来てくれる。介護スタッフの記録報告を元にかかりつけ医と確実な連携を行っている。</p>		<p>必要な時に来てもらうのではなく、非常勤でもよいので日常を把握してもらい、利用者・職員共に安心した生活を支援していきたい。 看護師が普段いることで、ささいな事等相談して行きたい。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し支援している。 入院時は、馴染みのスタッフが面会に行くことで安心して頂く。</p>		<p>入院せずホームで看取ることも今後考えられるので、専従の看護師を確保して行きたい。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>家族とかかりつけ医の間に入り、本人にとって最善のあり方を見つける努力をしている。 早い段階で話し合い、方針を固め全員で共有し統一したケアを目指している。</p>		<p>利用者様・ご家族様の希望搬送医療機関や延命治療についての意思をあらかじめ文書にて確認しておく。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人や家族の意向を踏まえ、意思・職員が連携を取りながら安心して最期を迎えられるよう、意思を確認しながら取り組む。急変の場合はまず、かかりつけ医に連絡を取っている。</p>		<p>同上</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他の事業所へ移られた場合、個別情報や支援状況を手渡すと共に情報交換を行い、移り住むことへのダメージを最小限に抑えるよう努めている。</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>常に人生の先輩として敬意をもった対応や声掛けを心掛けている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>スタッフの都合で介助せず、利用者様の訴えを引き出すよう努めている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者様の意思を尊重している。 入浴に関しては決められた時間になってしまう事が多い。 個々のペースに合わせる。</p>	<p>業務優先になってしまうことがあるので、注意してケアして行きたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>希望する美容院や希望する衣類など、本人の意思を尊重している。 外出の希望があるときは、スタッフが付き添い援助するよう努めている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事のメニューはだいたいスタッフで決めてしまっているが、会話の中で利用者様の嗜好を取り入れている。 下膳や食器洗い、テーブル拭き等、個々の能力や希望に応じた支援を行っている。</p>	<p>利用者様と一緒に献立を考え、一緒に買い物へ行く環境を作って行きたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>Dr. 確認のもと、出来るだけ本人の楽しみを尊重していくよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄後は清潔を心掛けている。オムツからリハパンへ・・・リハパンからパンツへ・・・そしてなるべくトイレでの排泄が行われるよう支援している。</p> <p>安易にオムツを頼らず、排泄機能の維持向上を目指している。</p> <p>定期的なトイレ誘導をしている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>時間帯は職員の都合になってしまうことがあるが、出来る限り本人のリズムを尊重している。</p>		<p>入浴を拒む方に対し、どのようにしたら楽しく苦痛なく入って頂けるか考えて行きたい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>個々の生活リズムの把握に努めている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>本人の出来る範ちゅうで準備や後片付けを手伝って頂いている。時には趣味の楽しみも行っている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>事務が「預かり金」を管理している。希望者へは、ご家族了解のもと本人管理をしていただいている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>気候や天候にもよるが、戸外に出る機会を作ったり希望の方へは、支援に努めている。</p>		<p>安定した職員確保、利用者様のニーズを聴き希望を叶えていきたい。日常的な外出をもっと増やして行きたい。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>地域の祭り見学、公園へのピクニック、地域公共施設の利用など、外出の支援をしているが、個別は難しい。</p>		<p>個別に出掛けられる・個別に援助できるような日を作って行きたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望・要望がある時は、電話をかけたり又は受けたりしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自由に居室を利用して頂いてゆっくりと過ごせる環境を心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全体で、この件に関して勉強会を開いたことはないの で、全員は把握し意識できているかは不明。 社員会議内では、「身体拘束をしないための対応方法」を話し合い実施に努めている。 身体拘束廃止委員会		全体で意識を深めて、身体拘束予防に努めたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵を掛けない。玄関は必要がると判断した場合は鍵を掛けている。		職員同士声掛けの見守りを強化し、鍵をかけない取り組みをして行きたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に利用者様の把握に努め、職員同士声を掛け合って安否確認している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の状態に応じた対応を心掛けている。危険だと判断したものに関しては、ご家族相談了解のもと、スタッフ管理させて頂いている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止対策委員会を開き、改善に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	日頃から緊急時の意識をもって業務に当たっている。 訓練はしていない。		職員が利用者様の安全を確保できるよう定期的な訓練を行って行きたい。職員がマニュアルをいつでも読めるよう、休憩室に設置したい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回定期的に避難訓練を行っている。		地域の人たちと交流を増やし、緊急時の協力体制を作って行きたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	現在の利用者の状態を報告する際、これから起こりうるリスクに関して伝え、今後の支援方法について検討に努めている。		家族が些細なことでも職員に話せる環境を作って行きたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	スタッフ全員で情報を共有し、小さな異変も見逃さない努力をしている。 毎朝、かかりつけ医に利用者の状況をFAXにて報告している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬保管場所に、服用しているまとめたファイルを置いている。 他医療機関通院の際は、お薬手帳を持参し”医療事故”防止に努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員同士が、便秘の利用者様を把握しトイレ誘導の際に、腹部マッサージをしている。又、冷たい牛乳やオリゴ糖など、身体的な負担を掛けないよう努めている。		薬で便秘を解消している事もあるので、出来る限り自然排便を支援して行きたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアの介助・声掛けを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事を毎日記録し、対応が必要な方へは個別対応を検討している。 本人の希望に沿う様、手配している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	ペーパータオル使用(タオル未使用) + 消毒液を配置している。 職員共に、インフルエンザの予防接種を受けている。 手洗い・うがう等行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に食器を漂白している。まな板・包丁は毎日漂白。 既配膳物は手つかずの物でも、再利用はせず廃棄徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に花を植え、入りやすい環境に努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月フローアの飾り付けに変化をも持たせている。生活空間での照明・異臭の防止・音響の空調に注意している。 オープンキッチンとなっているため、台所の音や臭いを感じていただけるようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを配置し、気軽に過ごして頂ける環境はあるが、一人になれる状況ではない。		状況に合わせ、食堂の席、ソファの配置、音響設備の位置等を変更し、快適空間をつくることに心掛ける。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人・家族と相談し過ごしやすい部屋にしよう努めている。		まだまだ殺風景な居室もあるので社員や使い慣れた品を配置。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夏と冬には特に温度を注意している。トイレは換気扇と消臭剤で対策している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやスロープ。エレベーターの設置で、車椅子の方でも浮行き来しやすい環境である。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレやお風呂へは、札を掛けたり目印になるようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先へは、椅子を置き過ごしやすい環境を作っている。庭にはベンチを置いて日向ぼっこが出来るように工夫している。		ただ座るだけでなく、一緒に入居者様と活動できるようにして行きたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・ターミナルケアを行っている。

[力を入れて取り組んでいる点]

・利用者

ご家族様が施設のサービス内容に満足して頂けるよう、職員が努力している事。  
 と同時に、職員が日頃の努力に満足感が持てるよな、内部の環境を整備する事。  
 の両立を図る。(介護者、被介護者の満足を両立させる)